

NetCOBOL V10.2.0



リリース情報

Linux(64)

J2UL-1339-01Z0(01)
2011年8月

まえがき

本書は、NetCOBOLのリリース情報について説明します。

製品の呼び名について

本書に記載されている製品の名称を、以下のように略して表記します。

正式名称	略称
Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 5 (for Intel64) Red Hat(R) Enterprise Linux(R) 6 (for Intel64)	Linux
Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition operating system SP3 Microsoft(R) Windows(R) XP Professional operating system SP3	Windows XP
Windows Vista(R) Home Basic Windows Vista(R) Home Premium Windows Vista(R) Business Windows Vista(R) Enterprise Windows Vista(R) Ultimate	Windows Vista
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition	Windows Server 2003
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Datacenter without Hyper-V(TM) Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Foundation Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008
Windows(R) 7 Home Premium Windows(R) 7 Professional Windows(R) 7 Enterprise Windows(R) 7 Ultimate	Windows 7

- ・「Linux」64ビットモードを指す場合は「Linux(64)」と表記します。

- ・「Windows XP」、「Windows Server 2003」、「Windows Vista」、「Windows Server 2008」および「Windows 7」をすべて指す場合は、「Windows」または「32ビットWindows」と表記します。

本書の目的

本書は、旧版からの機能追加、障害修正、およびそれらに伴う互換に関する情報を説明しています。

旧版を使用していたお客さまが、より円滑に本製品に移行できることを目的としています。

本書の対象読者

旧製品を導入されており、本製品への移行を検討されている方、あるいは移行中の方を対象としています。

本書の位置づけ

本書は、機能追加、障害修正、およびそれらに伴う互換に関する情報を説明していますが、断片的な情報ですので、全体像、あるいは詳細な情報はそれぞれのプログラムのマニュアルを参照してください。

関連マニュアル

この製品および関連製品のマニュアルには、本書の他に以下のマニュアルがあります。

- ・ NetCOBOL V10.2 COBOL 文法書
- ・ NetCOBOL V10.2 使用手引書
- ・ NetCOBOL V10.2 COBOL ファイルアクセスルーチン使用手引書
- ・ NetCOBOL V10.2 メッセージ説明書
- ・ NetCOBOL V10.1 例題プログラム
- ・ MeFt V10.2 ユーザーズガイド
- ・ MeFt V10.2 メッセージ集
- ・ J アダプタクラスジェネレータ V10.2 使用手引書
- ・ SIMPLIA/TF-MDPORTオンラインマニュアル
- ・ PowerSORT V6.0 ユーザーズガイド

登録商標について

UNIXは、The Open Groupが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

X Window System は、X Consortium, Inc の商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporationおよびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

Microsoft、Windows、Windows ServerおよびWindows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

HP およびHP-UX は、米国Hewlett-Packard Company の商標です。

その他の会社名または製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

輸出管理規制について

本ドキュメントを輸出または提供する場合は、外国為替および外国貿易法および米国輸出管理関連法規等の規制をご確認の上、必要な手続きをおとり下さい。

お願い

- ・ 本書を無断で他に転載しないようお願いいたします。
- ・ 本書は予告なしに変更されることがあります。

出版年月および版数

出版年月および版数	マニュアルコード
2011年4月 初版	J2UL-1339-01Z0(00)
2011年8月 第1.1版	J2UL-1339-01Z0(01)

著作権表示

Copyright 2009-2011 FUJITSU LIMITED

変更履歴

追加・変更内容	変更箇所	版数
シフトJISを扱うアプリケーションを動作させる場合に使用する関連ソフトウェアの表(“注”に記載)を修正しました。	1.1.1	第1.1版

目 次

第1章 追加機能の概要.....	1
1.1 NetCOBOLの追加機能概要.....	1
1.1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要.....	1
1.2 MeFtの追加機能概要.....	3
1.2.1 MeFt V10の追加機能概要.....	3
1.3 Jアダプタクラスジェネレータの追加機能概要.....	3
1.3.1 Jアダプタクラスジェネレータ V10の追加機能概要.....	3
1.4 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	3
1.5 PowerSORTの追加機能概要.....	3
第2章 互換に関する情報.....	4
2.1 NetCOBOL開発環境の互換に関する情報.....	4
2.1.1 環境変数LD_LIBRARY_PATHに設定するInterstage Charset Managerの格納ディレクトリ名の変更.....	4
2.1.2 障害修正に関する互換情報について.....	4
2.2 NetCOBOL運用環境の互換に関する情報.....	6
2.2.1 障害修正に関する互換情報について.....	6
2.3 MeFtの互換に関する情報.....	7
2.3.1 障害修正に関する互換情報について.....	7
2.4 Jアダプタクラスジェネレータ開発環境の互換に関する情報.....	8
2.5 Jアダプタクラスジェネレータ運用環境の互換に関する情報.....	8
2.6 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	8
2.7 PowerSORTの互換に関する情報.....	9
2.7.1 障害修正に関する互換情報について.....	9
第3章 プログラム修正一覧.....	10
3.1 NetCOBOL開発環境のプログラム修正一覧.....	10
3.2 NetCOBOL運用環境のプログラム修正一覧.....	14
3.3 MeFtのプログラム修正一覧.....	15
3.4 Jアダプタクラスジェネレータ開発環境のプログラム修正一覧.....	16
3.5 Jアダプタクラスジェネレータ運用環境のプログラム修正一覧.....	16
3.6 SIMPLIA/COBOL支援キット.....	17
3.7 PowerSORTのプログラム修正一覧.....	17

第1章 追加機能の概要

ここでは、本バージョン・レベルで追加された機能の概要と内容を説明します。

1.1 NetCOBOLの追加機能概要

ここに記載する情報は、以下の製品に関するものです。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

1.1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要

表1.1 NetCOBOL V10の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.2.0	ファイルの高速処理の一括指定サポート	レコード順・行順ファイルに有効となるファイルの高速処理(BSAM)機能を一括して指定できるようになりました。	◆使用手引書 ・ 6.8.1.2 ファイルの高速処理
2	V10.2.0	DISPLAY文のシスログ出力サポート	DISPLAY文の出力先として、シスログを指定できるようになりました。	◆使用手引書 ・ 9.1 小入出力 ・ 付録E 環境変数一覧 — CBR_DISPLAY_CONSOLE_OUTPUT(DISPLAY UPON CONSOLEのシスログ出力指定) — CBR_DISPLAY_SYSERR_OUTPUT(DISPLAY UPON SYSERRのシスログ出力指定) — CBR_DISPLAY_SYSOUT_OUTPUT(DISPLAY UPON SYSOUTのシスログ出力指定) — CBR_DISPLAY_CONSOLE_SYSLOG_LEVEL(DISPLAY UPON CONSOLEのシスログ出力時のレベル指定) — CBR_DISPLAY_SYSERR_SYSLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSERRのシスログ出力時のレベル指定) — CBR_DISPLAY_SYSOUT_SYSLOG_LEVEL(DISPLAY UPON SYSOUTのシスログ出力時のレベル指定) — CBR_DISPLAY_CONSOLE_SYSLOG_SRCNAME (DISPLAY UPON

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
				CONSOLEのシスログ出力時のアイデンティティ名指定) ー CBR_DISPLAY_SYSERR_SYSLOG_SRCNAME (DISPLAY UPON SYSERRのシスログ出力時のアイデンティティ名指定) ー CBR_DISPLAY_SYSOUT_SYSLOG_SRCNAME (DISPLAY UPON SYSOUTのシスログ出力時のアイデンティティ名指定)
3	V10.2.0	CHECK機能抑止の実行時オプションサポート	CHECK機能を抑止する下記の実行時オプションをサポートしました。 • nocb : CHECK(BOUND) • noci : CHECK(ICONF) • nocn : CHECK(NUMERIC) • nocp : CHECK(PRM)	◆使用手引書 ・ 4.2.2 実行時オプションを指定する
4	V10.2.0	TRACE機能抑止の実行時オプションサポート	TRACE機能を抑止する実行時オプション"nor"をサポートしました。	◆使用手引書 ・ 4.2.2 実行時オプションを指定する
5	V10.2.0	トレース情報ファイルのマルチプロセスサポート	トレース情報ファイルをプロセス毎に出力できるようになりました。	◆使用手引書 ・ 5.2.2 トレース情報
6	V10.2.0	シフトJISサポート (注)	COBOLプログラムのデータをシフトJISで扱うアプリケーションの作成機能を提供しました。	◆使用手引書 ・ 第22章 シフトJIS資産の活用

注:

シフトJISを扱うアプリケーションを動作させる場合、関連するソフトウェアは下表の製品をお使いください。下表以外との組み合わせは、動作を確認していません。

項番	製品名	バージョンレベル
1	MeFt	V10.2.0
2	PowerSORT	V6.0.0A
3	SIMPLIA/TF-LINDA	V50L41
4	Interstage Charset Manager	V9.1.1以降
5	Interstage Application Server	V9.2.0以降
6	Interstage List Creator Enterprise Edition (e-Doc Generator:PDF出力)	V9.1.0
7	Systemwalker Centric Manager Enterprise Edition	V13.3.0以降
8	PrintWalker/LXE または PrintWalker/LXE-EX	V15L11以降
9	Pro*COBOL	11.2.0

1.2 MeFtの追加機能概要

ここに記載する情報は、以下の製品に関するものです。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

1.2.1 MeFt V10の追加機能概要

表1.2 MeFt V10の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.2.0	文字コード追加	利用者プログラムの文字コード系にシフトJISを追加しました。	◆ユーザーズガイド ・ 1.5 エンハンス機能

1.3 Jアダプタクラスジェネレータの追加機能概要

ここに記載する情報は、以下の製品に関するものです。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

1.3.1 Jアダプタクラスジェネレータ V10の追加機能概要

表1.3 Jアダプタクラスジェネレータ V10の追加機能概要

項番	V/L	機能名	内容	マニュアルの記載場所
1	V10.2.0	シフトJISサポート	COBOLプログラムのデータをシフトJISで扱うアダプタクラスの作成機能を提供しました。	◆Jアダプタクラスジェネレータ使用手引書 ・ 3.4 Unicode環境で動作するシフトJISアプリケーション

1.4 SIMPLIA/COBOL支援キット

ここに記載する情報は、以下の製品に関するものです。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

追加機能はありません。

1.5 PowerSORTの追加機能概要

ここに記載する情報は、以下の製品に関するものです。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

追加機能はありません。

第2章 互換に関する情報

ここでは、以前のバージョン・レベルから変更された互換に関する情報を記載します。

2.1 NetCOBOL開発環境の互換に関する情報

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

2.1.1 環境変数LD_LIBRARY_PATHに設定するInterstage Charset Managerの格納ディレクトリ名の変更

変更内容

V10.2.0以降で、コンパイラが使用するInterstage Charset Managerのライブラリが変更になりました。

ライブラリの変更によって、従来翻訳できていたプログラムの翻訳時に、翻訳時メッセージJMN1671I-Sなどが出力される場合があります。

JMN1671I-S 登録集原文の組み込み中に入出力エラーが発生しました。登録集原文の組み込みを中止します。

翻訳時メッセージが出力された場合は、環境変数の設定を確認してください。



参照

“メッセージ説明書”の“JMN1671I-S”

対処方法

環境変数LD_LIBRARY_PATHにInterstage Charset Managerの64ビット版ライブラリの格納ディレクトリを指定してください。



例

LD_LIBRARY_PATH=/opt/FSUNiconv/lib64

2.1.2 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL開発環境について、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、下表で説明します。

表2.1 NetCOBOL開発環境の障害修正に関する互換情報

項番	V/L(*)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG75097	以下の環境・発生条件の場合、Windows版 NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能を使用して、Red Hat Enterprise Linux (for Intel64)上で動作するCOBOLアプリケーションに対するリモートデバッグを開始する際、「デバッガ本体部またはエンジン部でエラーが発生しました。(65535)」が表示され、デバッグを開始できないことがある問題を修正しました。 [環境] NetCOBOLのリモート開発において、サーバ環境が以下に該当する場合、本現象が発生します。 1. サーバがRed Hat Enterprise Linux (for Intel64)である。かつ、 2. サーバに、以下のいずれかの製品がインストールされている。かつ、 — Linux Intel64版 NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージV10.1.0

項番	V/L(*)	P番号	変更内容														
			— Linux Intel64版 NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージV10.1.0 3. サーバ上で使用しているgdbが7.0版以降である(RHEL5.5以降をインストールしている場合、またはgdb-7.0以降を単独でインストールしている場合が該当します)。 [発生条件] COBOLアプリケーションを、Windows版 NetCOBOL Studioからリモートデバッグする場合。														
2	V10.1.0	PG78440	以下の条件の場合、実行時に、正しい結果が得られないことがある問題を修正しました。 1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)またはBINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ、 2. 以下の組み込み関数が存在する。かつ、 [A] — FUNCTION MAX — FUNCTION MIN — FUNCTION MEAN — FUNCTION MEDIAN — FUNCTION RANGE [B] — FUNCTION ANNUITY — FUNCTION NUMVAL — FUNCTION NUMVAL-C — FUNCTION RANDOM 3. 2.の関数の引き数が、全て9桁以下の固定小数点数字である。かつ、 4. 2.の関数が[A]の場合、引き数が4つ以上指定されている場合。														
3	V10.1.0	PG77383	以下の条件の場合、実行時に、正しい結果が得られないことがある問題を修正しました。 1. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。(*1)かつ、 2. 内部10進項目を数字編集項目へ設定している文を記述している。かつ、 3. 内部10進項目と数字編集項目のけた数は、「整数部のけた数が同じ、かつ、小数部がない」である。かつ、 4. 数字編集項目は、編集方法にゼロ抑制のみを指定している (PICTUREの文字列には'9','Z','*'のみを使用している)。かつ、 5. 2.の文の前に、データ項目 (または中間結果)を2.の内部10進項目へ設定する文(*2)を記述している。かつ、 6. 5.のデータ項目 (または中間結果)のけた数と2.の内部10進項目のけた数 の関係が次のようになっている。かつ、 <table><tr><th>データ項目 (または中間結果)</th><th>内部10進項目</th></tr><tr><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td>10</td><td>11</td></tr><tr><td>12</td><td>13</td></tr></table>	データ項目 (または中間結果)	内部10進項目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
データ項目 (または中間結果)	内部10進項目																
2	3																
4	5																
6	7																
8	9																
10	11																
12	13																

項番	V/L(*)	P番号	変更内容
			1415 1617 ----- 7. 5.のデータ項目 (または中間結果)と2.の内部10進項目の両方に小数部がない。 *1: デフォルトの翻訳オプションはOPTIMIZEです。 *2: 数字転記はMOVE文だけでなく、COMPUTE文などの暗黙に転記が発生する場合も該当します。

* : V/Lは障害が存在する範囲を示します。

2.2 NetCOBOL運用環境の互換に関する情報

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

2.2.1 障害修正に関する互換情報について

ここでは、NetCOBOL運用環境について、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、下表で説明します。

表2.2 NetCOBOL運用環境の障害修正に関する互換情報

項番	V/L(*)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG72597	以下の条件の場合、NetCOBOL V10.1.0では、実行時にWRITE AFTER ADVANCING PAGEの実行が有効となりませんでした。NetCOBOL V10.2.0以降は、障害修正により正しく動作するようになりました。 1. 行順ファイルで外部ファイルハンドラと連携している。かつ、 2. 1.に対するOPEN文の実行直後にAFTER ADVANCING PAGE指定のWRITE文を実行している。
2	V10.1.0	PG73346	以下の条件の場合、NetCOBOL V10.1.0では、実行時に実行時メッセージJMP0320I-I/Uに埋め込まれる8桁の16進文字の下位4桁に不要なゼロ列が設定される問題がありましたが、NetCOBOL V10.2.0以降は、障害修正により正しく動作するようになりました。 1. COBOLファイルシステム(注)を使用したファイル操作を行っている。かつ、 2. 以下のいずれかの入出力文を実行している。かつ、 — READ文 — WRITE文 — REWRITE文 — DELETE文 — START文 3. 2.の入出力文の実行が失敗した。 注: ファイルの高速処理(BSAM)を指定している場合、該当しません。
3	V10.1.0	PG75097	以下の環境・発生条件の場合、NetCOBOL V10.1.0では、Windows版 NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能を使用して、Red Hat Enterprise Linux (for Intel64)上で動作するCOBOLアプリケーションに対するリモートデバッグを開始する際、「デバッガ本体部またはエンジン部でエラーが発生しました。(65535)」が表示され、デバッグを開始できない問題がありましたが、NetCOBOL V10.2.0以降は、障害修正により正しく動作するようになりました。

項番	V/L(*)	P番号	変更内容
			[環境] NetCOBOLのリモート開発において、サーバ環境が以下に該当する場合、本現象が発生します。 1. サーバがRed Hat Enterprise Linux (for Intel64)である。かつ、 2. サーバに、以下のいずれかの製品がインストールされている。かつ、 - ー Linux Intel64版 NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージV10.1.0 - ー Linux Intel64版 NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージV10.1.0 3. サーバ上で使用しているgdbが7.0版以降である(RHEL5.5以降をインストールしている場合、またはgdb-7.0以降を単独でインストールしている場合が該当します)。 [発生条件] COBOLアプリケーションを、Windows版 NetCOBOL Studioからリモートデバッグする場合。

* : V/Lは障害が存在する範囲を示します。

2.3 MeFtの互換に関する情報

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

2.3.1 障害修正に関する互換情報について

ここでは、MeFtについて、NetCOBOL V10.2.0以降で修正された障害により動作が変わるものを、下表で説明します。

表2.3 MeFtの障害修正に関する互換情報

項番	V/L(*)	P番号	変更内容
1	V10.1.0	PG77027	• 変更内容1 以下の条件の時、本来、次行に送り出されるべきでない文字列が次行に送り出される問題を修正しました。 1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「句読点のぶら下げ」または「行頭／行末禁則」のいずれかをONにした。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、 3. 項目内のいずれかの行の末尾が空白である。かつ、 4. 3.の行末尾の空白の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字が2個以上連続している。かつ、 5. 4.の文字列の直前が空白文字である。かつ、 6. 5.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 • 変更内容2 以下の条件の場合、本来、複数行に分割されるべきでない文字列が分割される問題を修正しました。 1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「行頭／行末禁則」をONにし「行頭および行末」または「行末のみ」を指定した。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、

項番	V/L(*)	P番号	変更内容
			3. 項目内のいずれかの行でワードラップや行頭・行末禁則による追い出しが発生した。かつ、 4. 3.の追い出しを行ったあと、行末尾が空白となる。かつ、 5. 4.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の行末禁則文字である。かつ、 6. 5.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字である。かつ、 7. 6.の文字列の直前が空白である。かつ、 8. 7.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 [備考] 変更内容2については、実行時に、以下の環境変数を指定することで修正が有効となります。 環境変数:MEFTWRAPCONTROL 設定値:2 shの指定方法) \$ MEFTWRAPCONTROL=2;export MEFTWRAPCONTROL cshの指定方法) % setenv MEFTWRAPCONTROL 2
2	V10.1.0	PG77029	以下の条件の時、List Creator のPDFフォント登録機能で登録したフォントが有効とならず、登録しようとしたフォント上の文字が「・」などで出力される問題がありましたが、登録した文字で出力されるようになりました。 1. List Creator のPDFフォント登録機能で、以下のフォントを登録し、そのフォントを指定した帳票を、PDFファイルに出力した場合。 — FUJ明朝体 — FUJゴシック体 — @FUJ明朝体 — @FUJゴシック体

* : V/L は障害が存在する範囲を示します。

2.4 Jアダプタクラスジェネレータ開発環境の互換に関する情報

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

互換に関する情報はありません。

2.5 Jアダプタクラスジェネレータ運用環境の互換に関する情報

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

互換に関する情報はありません。

2.6 SIMPLIA/COBOL支援キット

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

互換に関する情報はありません。

2.7 PowerSORTの互換に関する情報

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

2.7.1 障害修正に関する互換情報について

ここでは、PowerSORT V6.0.0A(NetCOBOL V10.2.0)以降で修正された障害により動作が変わるものを以下の表で説明します。

表2.4 PowerSORTの障害修正に関する互換情報

項番	V/L(*1)	P番号	変更内容
1	V6.0.0 (V10.1.0)	PG76059	以下の条件の場合、PowerSORTが実行結果誤り、無限ループ、または異常終了することがありましたが、PowerSORT V6.0.0A(NetCOBOL V10.2.0)以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortコマンド、bsortexコマンド、またはBSORT関数を使用している。かつ、 2. ソート機能を指定している。かつ、 3. テキストファイルCSV形式またはテキストファイルTSV形式を指定している。かつ、 4. レコード集約機能または出力ファイルのレコード選択機能を指定している。かつ、 5. 集約フィールドまたは選択フィールドがダブルクォーテーションで囲まれている。
2	V6.0.0 (V10.1.0)	PG76539	以下の条件の場合、PowerSORTが実行結果誤り、または異常終了することがありましたが、PowerSORT V6.0.0A(NetCOBOL V10.2.0)以降では、障害修正の吸収により正しく動作するようになりました。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. テキストファイルCSV形式またはテキストファイルTSV形式を指定している。かつ、 3. 出力ファイルのレコード再編成機能を指定している。

*1 : V/Lは障害が存在する範囲を示します。また、()内のバージョンはNetCOBOL Enterprise Editionのバージョン・レベルを示します。

第3章 プログラム修正一覧

本ソフトウェアでは、以前のバージョン・レベルで発生した障害が修正されています。

ここでは、本バージョン・レベルで修正された修正番号および修正内容を説明します。

3.1 NetCOBOL開発環境のプログラム修正一覧

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

表3.1 NetCOBOL開発環境のプログラム修正一覧

項番	V/L(*)	P番号	現象
1	V10.1.0	PG73504	以下の条件の場合、行番号情報埋込みツール(insdbinf)使用時に、COBOLコンパイラが以下の翻訳時メッセージを出力して異常終了することがあります。 JMN1059I-U 登録集の処理のための主記憶が不足しています。 - Oracle Pro*COBOLを使用してPro*COBOLプログラムを翻訳している。かつ、 1.のPro*COBOLプログラムに以下の記述がある。かつ、 - INCLUDE文を指定している。かつ、 - a.のINCLUDE文の次の行がコメント行である。かつ、 - b.の次の行がコメント行でない。かつ、 - a.のINCLUDE文に指定しているINCLUDEファイル内に「END-EXEC」がある。かつ、 - b.の行数と上記d)のINCLUDEファイル内にある最後の「END-EXEC」の行数が同じ。 - insdbinfコマンドを使用して上記2)のPro*COBOLプログラムからCOBOLプログラムを生成している。かつ、 3.で生成したCOBOLプログラムを翻訳した。 例： Pro*COBOLプログラム <pre>098行目：000098 EXEC SQL 099行目：000099 INCLUDE INC01 *> 発生条件 2)-a 100行目：000100 END-EXEC. 101行目：000101* コメント行 *> 発生条件 2)-b 2)-e 102行目：000102 EXEC SQL *> 発生条件 2)-c</pre> INCLUDEファイル（ファイル名：INC01.cob） <pre>099行目：000099 EXEC SQL 100行目：000100 END DECLARE SECTION 101行目：000101 END-EXEC. *> 発生条件 2)-d 2)-e</pre>
2	V10.1.0	PG73470	以下の条件の場合、翻訳時に誤った指摘メッセージ(JMN9333I-W (STD)CALL文中のUSING句に指定した作用対象の個数は5個以下でなければなりません。処理を続行します。)が出力されることがあります。 - 翻訳オプションFLAGSW(STDM)またはFLAGSW(STDI)を指定している。かつ、 - CALL文にUSING指定を記述している。かつ、 - USINGに指定したパラメタが5個以下の一意名である。かつ、 3.の一意名に添字または部分参照を1個以上指定している。かつ、

項番	V/L(*)	P番号	現象																		
			5. 4.の添字または部分参照に一意名を指定している。かつ、 6. 3.と5.の一意名の個数の合計が6個以上である。																		
3	V10.1.0	PG77217	以下の条件で作成された実行形式ファイルに対話型デバッガでデバッグすると、対話型デバッガがアペンドするため、デバッグが開始できません。 1. COPY文で登録集を取り込んでいる。かつ、 2. 取り込んだCOPY登録集が手続き部見出しのみである。かつ、 3. 1.と2.にあてはまるソースプログラムを、翻訳オプションTESTを指定して翻訳した。																		
4	V10.1.0	PG74245	以下の条件の場合、翻訳時に異常終了することがあります。 1. 手続き部の規模が比較的大きい(目安として1万行以上(注))プログラムである。かつ 2. オブジェクト指定子を使用している。 注:1万行以上はあくまでも目安です。書き方によっては1万行以下で発生する可能性もあります。ただし一行に複数の文を書くようなことをしていない、標準的なプログラミング形式であれば、数万行以上なければ、現象発生の可能性は極めて低いです。																		
5	V10.1.0	PG77383	以下の条件の場合、実行時に正しい結果が得られない場合があります。 1. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効である。(*1)かつ、 2. 内部10進項目を数字編集項目へ設定している文を記述している。かつ、 3. 内部10進項目と数字編集項目のけた数は、「整数部のけた数が同じ、かつ、小数部がない」である。かつ、 4. 数字編集項目は、編集方法にゼロ抑制のみを指定している(PICTUREの文字列には'9','Z','*'のみを使用している)。かつ、 5. 2.の文の前に、データ項目(または中間結果)を2.の内部10進項目へ設定する文(*2)を記述している。かつ、 6. 5.のデータ項目(または中間結果)のけた数と2.の内部10進項目のけた数 の関係が次のようになっている。かつ、 <table><tr><th>データ項目 (または中間結果)</th><th>内部10進項目</th></tr><tr><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>6</td><td>7</td></tr><tr><td>8</td><td>9</td></tr><tr><td>10</td><td>11</td></tr><tr><td>12</td><td>13</td></tr><tr><td>14</td><td>15</td></tr><tr><td>16</td><td>17</td></tr></table> 7. 5.のデータ項目(または中間結果)と2.の内部10進項目の両方に小数部がない *1:デフォルトの翻訳オプションはOPTIMIZEです。 *2:数字転記はMOVE文だけでなく、COMPUTE文などの暗黙に転記が発生する場合も該当します。	データ項目 (または中間結果)	内部10進項目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
データ項目 (または中間結果)	内部10進項目																				
2	3																				
4	5																				
6	7																				
8	9																				
10	11																				
12	13																				
14	15																				
16	17																				
6	V10.1.0	PG75097	以下の環境・発生条件の場合、Windows版 NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能を使用して、Red Hat Enterprise Linux (for Intel64)上で動作するCOBOLアプリケーションに対するリモートデバッグを開始する際、「デバッガ本体部またはエンジン部でエラーが発生しました。(65535)」が表示され、デバッグを開始できません。																		

項番	V/L(*)	P番号	現象
			[環境] NetCOBOLのリモート開発において、サーバ環境が以下に該当する場合、本現象が発生します。 1. サーバがRed Hat Enterprise Linux (for Intel64)。かつ、 2. サーバに、以下のいずれかの製品がインストールされている。かつ、 － Linux Intel64版 NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージV10.1.0 － Linux Intel64版 NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージV10.1.0 3. サーバ上で使用しているgdbが7.0版以降である(RHEL5.5以降をインストールしている場合、またはgdb-7.0以降を単独でインストールしている場合が該当します)。 [発生条件] COBOLアプリケーションを、Windows版 NetCOBOL Studioからリモートデバッグする場合
7	V10.1.0	PG77463	以下の条件の場合、翻訳時にCOBOLコンパイラが以下のメッセージを出力して異常終了することがあります。 「プログラム名 x x x」 0: JMN0102I-U 翻訳処理が続行不可能となりました。 他の診断メッセージが表示されている場合は、それらを修正して、再度翻訳してみてください。(区名=JMNRL, モジュール名=SABEMAC, 詳細コード=6202, 行情報=y y.) 1. 表示ファイル機能を使用している。かつ、 2. 表示ファイルの特殊レジスタ(注)を比較条件の作用対象に指定している。かつ、 3. 2.の特殊レジスタを日本語項目で修飾している。 注:表示ファイルの特殊レジスタ ・ EDIT-MODE ・ EDIT-OPTION ・ EDIT-OPTION2 ・ EDIT-OPTION3 ・ EDIT-COLOR ・ EDIT-STATUS ・ EDIT-CURSOR
8	V10.1.0	PG78440	以下の条件の場合、実行時に正しい結果が得られないことがあります。 1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)またはBINARY(WORD,MLBOFF)が指定されている。かつ、 2. 以下の組み込み関数が存在する。かつ、 [A] － FUNCTION MAX － FUNCTION MIN － FUNCTION MEAN － FUNCTION MEDIAN － FUNCTION RANGE [B]

項番	V/L(*)	P番号	現象
			— FUNCTION ANNUITY — FUNCTION NUMVAL — FUNCTION NUMVAL-C — FUNCTION RANDOM 3. 2.の関数の引き数が、全て9桁以下の固定小数点数字である。かつ、 4. 2.の関数が[A]の場合、引き数が4つ以上指定されている場合。
9	V10.1.0	PG78833	以下の条件の場合、翻訳時にCOBOLコンパイラが次のメッセージを出力して異常終了することがあります。 「プログラム名 x x x」 0: JMN0102I-U 翻訳処理が続行不可能となりました。他の診断メッセージが表示されている場合は、それらを修正して、再度翻訳してみてください。 (区名=JMNRL, モジュール名=SABEMAC, 詳細コード=6202, 行情報=y y.) 1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)が有効である。かつ、 2. 翻訳オプションCHECK(NUMERIC)またはCHECK(ALL)が有効である。かつ、 3. 手続き部内に、添字付けおよび部分参照付けを使用した文がある。かつ、 4. 3.の文の添字、部分参照の最左端文字位置、または部分参照の長さのいずれかにUSAGE COMP-5の2進データ項目を指定している。かつ、 5. 4.の2進データ項目の桁数が10桁～16桁である。 または、 1. 翻訳オプションBINARY(BYTE)が有効である。かつ、 2. 外部プログラムを呼び出すUSING BY VALUE指定のCALL文が存在する。かつ、 3. 2.CALL文にUSING BY VALUE指定のデータ項目がCOMP-5の2進項目である。かつ、 4. 3.の2進データ項目の桁数が10桁～16桁である。
10	V10.1.0	PG79472	以下の条件の場合、翻訳時に以下のメッセージを出力して異常終了することがあります。 「プログラム名 x x x」 0: JMN0102I-U 翻訳処理が続行不可能となりました。他の診断メッセージが表示されている場合は、それらを修正して、再度翻訳してみてください。 (区名=JMNRL, モジュール名=SABEMAC, 詳細コード=5460, 行情報=y y.) 1. 二項演算の加減算がある。かつ、 2. 1.の作用対象の一意名は符号付き内部10進または符号付き外部10進である。かつ、 3. 1.の作用対象の一意名は桁数が同じである。かつ、 4. 1.の結果の一意名は、1.の作用対象の一方と同じ一意名である。 [例] <pre> 01 A PIC S9(4) COMP-3. 01 B PIC S9(4) COMP-3. 01 C PIC S9(4) DISPLAY. 01 D PIC S9(4) DISPLAY. : COMPUTE A = A + B. SUBSTRUCT C FORM D. </pre>
11	V10.1.0	PG79150	以下の条件の場合、翻訳時にメッセージを出力しないで異常終了することがあります。

項番	V/L(*)	P番号	現象
			1. 翻訳オプションOPTIMIZEが有効(*1)である。かつ、 2. 手続き部で、以下の一意名を使用している(*2)。 a. 添字付けをしているデータ項目 b. 部分参照をしているデータ項目 c. 可変反復データ項目 d. 可変反復データ項目と同じ集団項目に含まれるデータ項目 *1: 翻訳オプションのデフォルトはOPTIMIZEであるプラットフォームはLinux64-IPFとLinux64-EM64Tです。 *2: 翻訳時のメモリの状態に依存するため、条件に一致しても異常終了しないことがあります。

* : V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.2 NetCOBOL運用環境のプログラム修正一覧

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

表3.2 NetCOBOL運用環境のプログラム修正一覧

項番	V/L(*)	P番号	現象
1	V10.1.0	PG72597	以下の条件の場合、実行時にWRITE AFTER ADVANCING PAGEの実行が有効となりません。 1. 行順ファイルで外部ファイルハンドラと連携している。かつ、 2. 1.に対するOPEN文の実行直後にAFTER ADVANCING PAGE指定のWRITE文を実行している。
2	V10.1.0	PG73346	以下の条件の場合、実行時に実行時メッセージJMP0320I-I/Uに埋め込まれる8桁の16進文字の下位4桁に不要なゼロ列が設定されます。 1. COBOLファイルシステム(注)を使用したファイル操作を行っている。かつ、 2. 以下のいずれかの入出力文を実行している。かつ、 — READ文 — WRITE文 — REWRITE文 — DELETE文 — START文 3. 2.の入出力文の実行が失敗した。 注: ファイルの高速処理(BSAM)を指定している場合、該当しません。
3	V10.1.0	PG75097	以下の環境・発生条件の場合、Windows版 NetCOBOL Studioのリモートデバッグ機能を使用して、Red Hat Enterprise Linux (for Intel64)上で動作するCOBOLアプリケーションに対するリモートデバッグを開始する際、「デバッガ本体部またはエンジン部でエラーが発生しました。(65535)」が表示され、デバッグを開始できません。 [環境]

項番	V/L(*)	P番号	現象
			NetCOBOLのリモート開発において、サーバ環境が以下に該当する場合、本現象が発生します。 1. サーバがRed Hat Enterprise Linux (for Intel64)。かつ、 2. サーバに、以下のいずれかの製品がインストールされている。かつ、 — Linux Intel64版 NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージV10.1.0 — Linux Intel64版 NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージV10.1.0 3. サーバ上で使用しているgdbが7.0版以降である(RHEL5.5以降をインストールしている場合、またはgdb-7.0以降を単独でインストールしている場合が該当します)。 [発生条件] COBOLアプリケーションを、Windows版 NetCOBOL Studioからリモートデバッグする場合
4	V10.1.0	PG77612	以下の環境・発生条件の場合、実行時メッセージ「SORTまたはMERGE文は入力および出力手続き中で実行できません。」が出力されて、SORT文またはMERGE文の実行が失敗する場合があります。 [環境] 1. PowerSORTをインストールしている。かつ、 2. マルチスレッドで動作した。 [発生条件] 異なるスレッドで同時にSORT文またはMERGE文を実行した。

* : V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.3 MeFtのプログラム修正一覧

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

表3.3 MeFtのプログラム修正一覧

項番	V/L(*)	P番号	現象
1	V10.1.0	PG77027	ワードラップ制御異常が発生することがあります。 • 現象1 以下の条件の場合、本来、次行に送り出されるべきでない文字列が次行に送り出されます。 1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「句読点のぶら下げ」または「行頭／行末禁則」のいずれかをONにした。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、 3. 項目内のいずれかの行の末尾が空白である。かつ、 4. 3.の行末尾の空白の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字が2個以上連続している。かつ、 5. 4.の文字列の直前が空白文字である。かつ、 6. 5.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 • 現象2 以下の条件の場合、本来、複数行に分割されるべきでない文字列が分割されます。

項番	V/L(*)	P番号	現象
			1. 矩形混在項目または矩形英数字項目のプロパティで「行頭／行末禁則」をONにし「行頭および行末」または「行末のみ」を指定した。かつ、 2. 「ワードラップ」をONにした。かつ、 3. 項目内のいずれかの行でワードラップや行頭・行末禁則による追い出しが発生した。かつ、 4. 3.の追い出しを行ったあと、行末尾が空白となる。かつ、 5. 4.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の行末禁則文字である。かつ、 6. 5.の直前がASCIIコードで0x21～0x7Eの範囲の文字である。かつ、 7. 6.の文字列の直前が空白である。かつ、 8. 7.の空白の前に空白以外の文字が存在する。 [備考] 現象2については、実行時に、以下の環境変数を指定することで修正が有効となります。 環境変数:MEFTWRAPCONTROL 設定値:2 shの指定方法) \$ MEFTWRAPCONTROL=2;export MEFTWRAPCONTROL cshの指定方法) % setenv MEFTWRAPCONTROL 2
2	V10.1.0	PG77028	以下の条件の時、出力結果異常のPDFファイルがメールに添付されて送信されます。 1. List Creator PDF変換機能の文書情報ファイルでPDFメール配信の指定を行う。かつ、 2. PDF出力を行う。かつ、 3. プリンタ装置の制御で印刷のキャンセルを行った。
3	V10.1.0	PG77029	以下の条件の時、List CreatorのPDFフォント登録機能で登録したフォントが有効とならず、登録しようとしたフォント上の文字が「・」などで出力される場合があります。 1. List CreatorのPDFフォント登録機能で、以下のフォントを登録し、そのフォントを指定した帳票をPDFファイルに出力する。 — FUJ明朝体 — FUJゴシック体 — @FUJ明朝体 — @FUJゴシック体

* : V/Lは障害が存在する範囲を示します。

3.4 Jアダプタクラスジェネレータ開発環境のプログラム修正一覧

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- ・ NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

プログラム修正の情報はありません。

3.5 Jアダプタクラスジェネレータ運用環境のプログラム修正一覧

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

プログラム修正の情報はありません。

3.6 SIMPLIA/COBOL支援キット

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ

プログラム修正の情報はありません。

3.7 PowerSORTのプログラム修正一覧

ここに記載する情報は、以下の製品に適用されます。

- NetCOBOL Enterprise Edition 開発・運用パッケージ
- NetCOBOL Enterprise Edition 運用パッケージ

表3.4 PowerSORTのプログラム修正一覧

項番	V/L(*1)	P番号	現象
1	V6.0.0 (V10.1.0)	PG76059	以下の条件の場合、PowerSORTが実行結果誤り、無限ループ、または異常終了することがあります。 1. bsortコマンド、bsortexコマンド、またはBSORT関数を使用している。かつ、 2. ソート機能を指定している。かつ、 3. テキストファイルCSV形式またはテキストファイルTSV形式を指定している。かつ、 4. レコード集約機能または出力ファイルのレコード選択機能を指定している。かつ、 5. 集約フィールドまたは選択フィールドがダブルクォーテーションで囲まれている。
2	V6.0.0 (V10.1.0)	PG76539	以下の条件の場合、PowerSORTが実行結果誤り、または異常終了することがあります。 1. bsortexコマンドを使用している。かつ、 2. テキストファイルCSV形式またはテキストファイルTSV形式を指定している。かつ、 3. 出力ファイルのレコード再編成機能を指定している。

*1 : V/Lは障害が存在する範囲を示します。また、()内のバージョンはNetCOBOL Enterprise Editionのバージョン・レベルを示します。